（2025年版）

医療DX

（エーヒィス）

AHIS クラウド電子カルテ

ご紹介資料

100床前後の中小病院に最適なクラウド電子カルテです

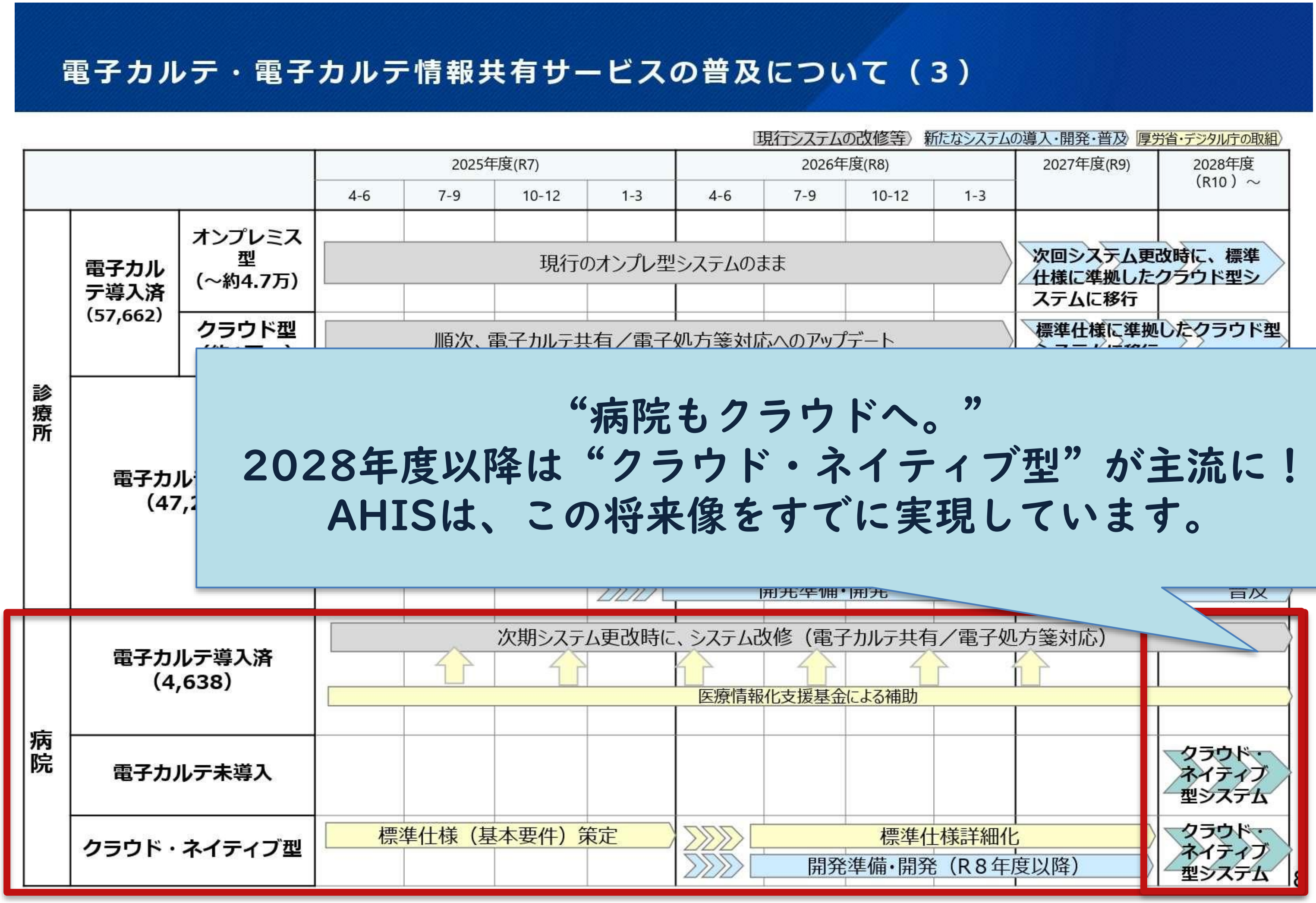
株式会社 エイトス

医療DX令和ビジョン2030とAHIS

AHISは厚労省の医療DX方針に準拠した
クラウドネイティブ型電子カルテです

AHISは「医療DX令和ビジョン2030」で求められる
“クラウド・ネイティブ型電子カルテ”を、すでに現場に提供しています。
DXの波に取り残されない病院経営のために、今こそ次の一手を。

医療DX令和ビジョン2030のロードマップ



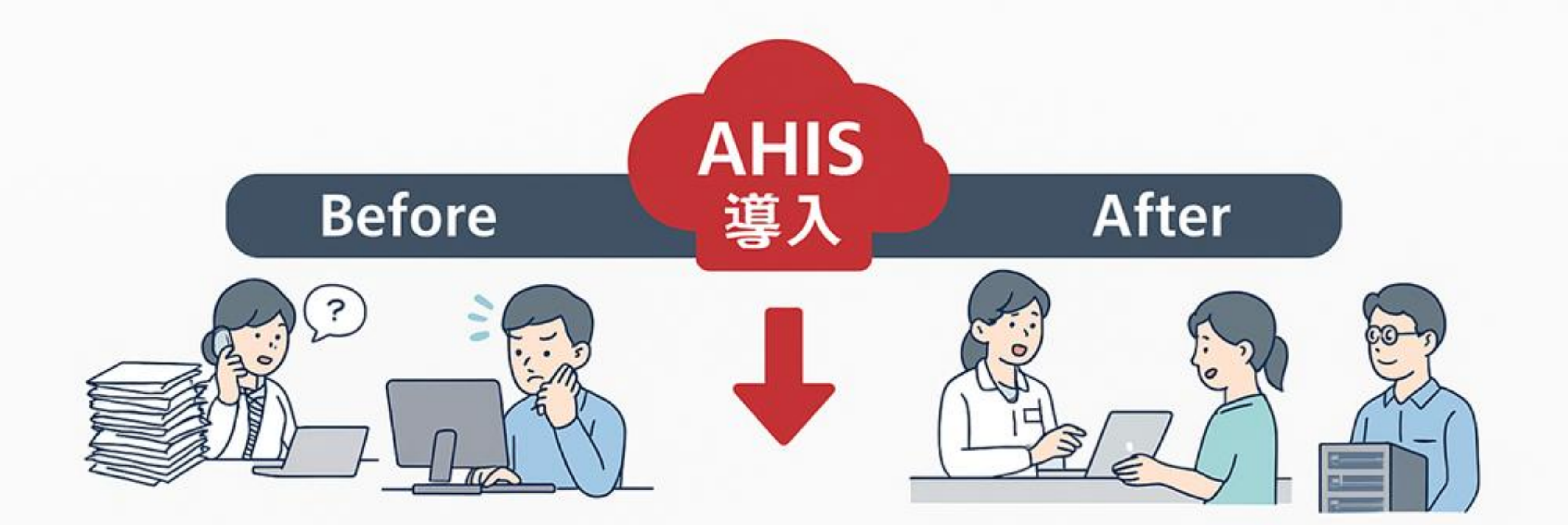
“病院もクラウドへ。”
2028年度以降は“クラウド・ネイティブ型”が主流に！
AHISは、この将来像をすでに実現しています。

出典：厚生労働省「医療DX令和ビジョン2030」資料（2025年7月公開）

医療現場の課題

**AHISならクラウドなので
費用を抑えたい中小病院に最適です**

AHISで解決できること



- 今は紙カルテなので管理が大変
- 今の電カルは操作が分かりずらい
- 5～6年で買い替えが必要
- 保守費用も高い
- 専任のＩＴ管理者が必要

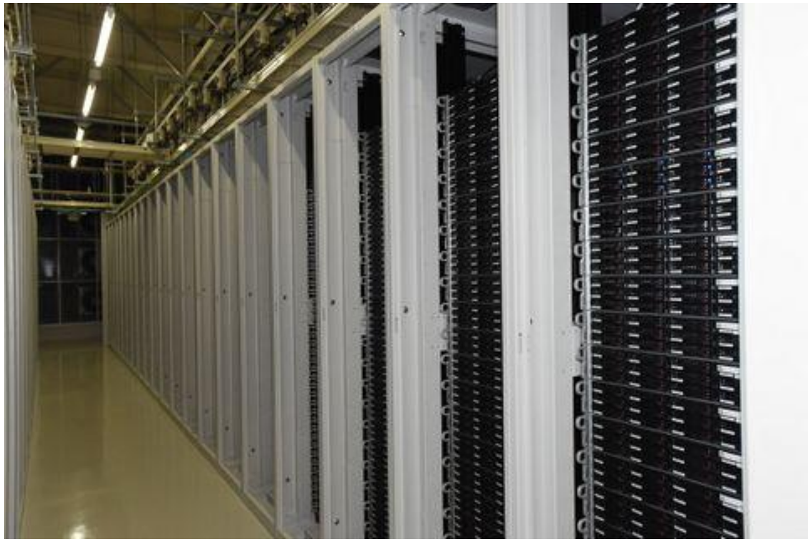
- 院内のどこからでもカルテを確認
- 誰でも使える直感UI
- クラウドなので買い替え不要
- 月額サービスなので低コスト
- 専任のIT管理者が不要

AHISの3つの強み

現場が選ぶ、“ちょうどいい”電子カルテ。

堅牢な国内データセンターで運用

国内有数の規模を誇る大手データセンター「（株）IDCフロンティア」様が提供するクラウド基盤サービスを利用しております。



<u>国内でも大地震が発生する確率が非常に低いとされる北九州にある</u>
<u>西日本最大級のデータセンターで運用しています。</u>
クラウドネイティブだからこそ、院内サーバ障害や物理的被害のリスクを回避でき、医療情報の保全と、診療業務の継続性を確保できます。

なぜ、ORCA連動型なのか？ – AHISの低コストの理由

「ORCAと連携することで、電子カルテの開発費用を抑え、導入コストの最適化を実現」

WebORCA 最新のAPI連携に対応

ORCAと連携できるデータ

1. 患者情報（基本情報・保険など）
2. 受付情報
3. 病名情報
4. 診療行為（処方処置など）
5. 入退院情報
6. 転室・外泊情報
7. 食事情報（食数）
8. ADL・医療区分

ORCAから移行できるデータ

（※初期導入時のデータ変換に対応するデータ）

1. 患者情報
2. （患者別）病名情報
3. 点数マスタ（院内採用薬など）
4. 病名マスタ（自院病名）
5. 前回処方DO（※オプション対応）

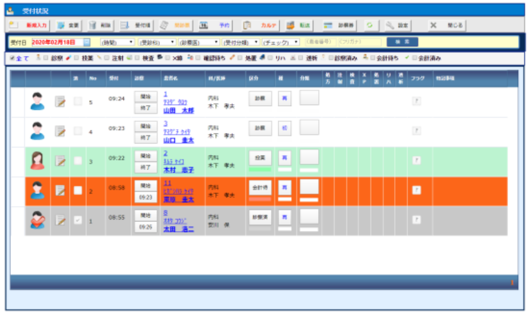
💡 クラウド × ORCA連動型だから、電子カルテ導入のコストがここまで下がる。

「見やすい・使いやすい」画面設計で、現場にすぐ定着

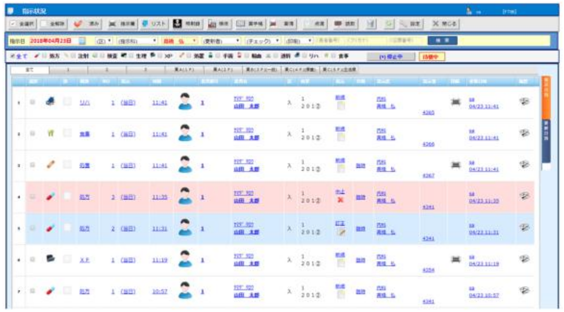
誰でも直感的に操作できるインターフェースだから、マニュアルに頼らず現場でスムーズに使い始められます。

💡 UIが複雑すぎて使いこなせない——そんな電子カルテの悩みを、AHISが解決します。

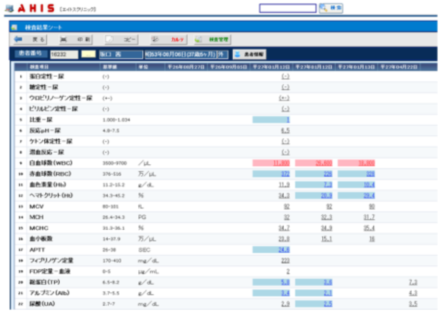
日々の業務を支える便利機能を多数搭載



（受付状況）

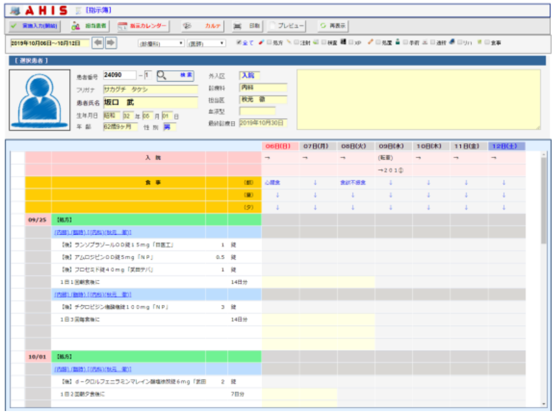


（指示状況）

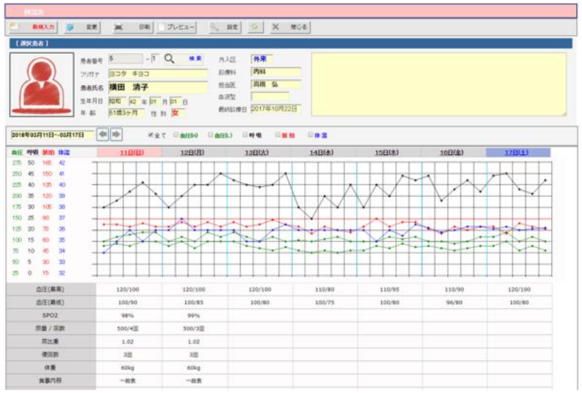


（検査結果）

（入院状況）



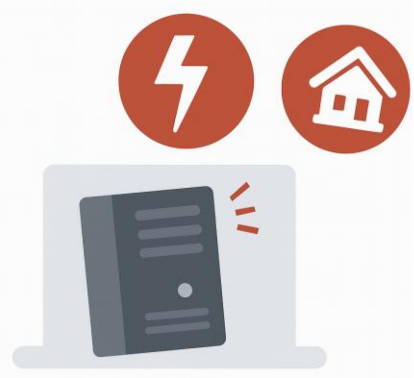
（指示簿）



（検温表）

💡 直感的な操作性とシンプルな導線設計により、スタッフ全員がすぐに使いこなせる。

災害・障害時にも止まらない医療を



地震・水害・停電など
サーバー機器の故障

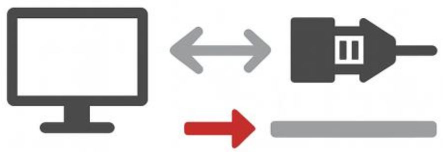
- ✓ データは冗長化で常時バックアップ
- ✓ ネット環境があればどこでもアクセス
- ✓ セキュリティ要件を満たした国内DC

💡 自然災害など不測の事態にもクラウドなら安心

非常時の備え：トラブル対策の具体例

回線障害や端末トラブルなど、院内で起こりうる“もしも”にも備えた安心設計。
クラウド型だからこそ可能な多層的な対応で、診療を止めません。

回線の二重化



通信回線を二重化しておけば、予備回線で業務を継続できます

HTML参照カルテ

ネットワークトラブル時も、最新のカルテをHTML形式で自動保存しているので参照可能。

端末トラブル時も

クラウド型だから、別PC・タブレットでログインすれば即座に業務再開。端末依存のリスクを軽減します。

💡 診療を止めないための“現場目線”の備えも万全。
万が一の時にこそ、クラウドの強みが活きます。

医療DXに対応した“クラウド電子カルテ”

令和ビジョン2030の要件に準拠し、今すぐ実現できるDXを提供

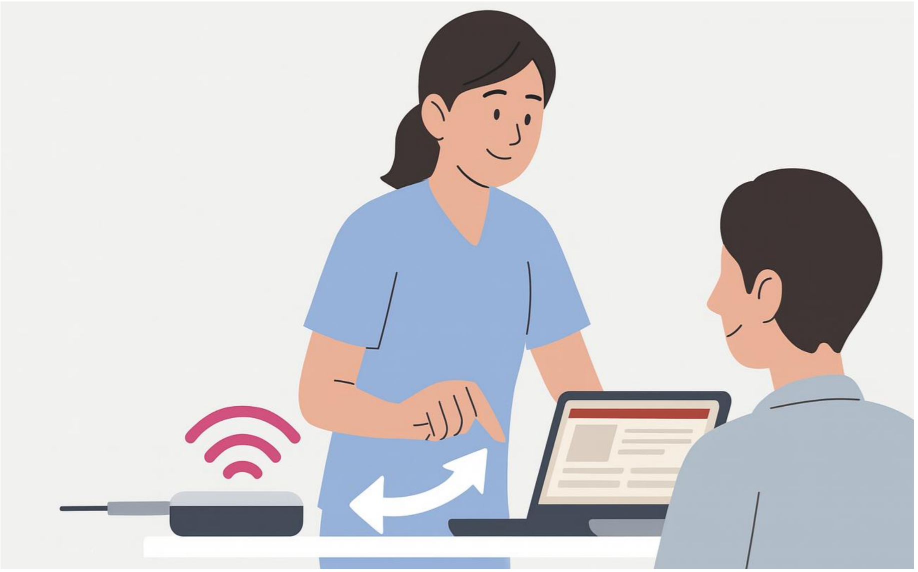
- ✓ **AHISは、”厚労省の「医療DX 令和ビジョン2030” に準拠**
- ✓ **中小病院にも最適なクラウド・ネイティブ型電子カルテ**
- ✓ **オンライン資格確認・電子処方箋・バイタル自動入力など、現場に役立つDXを網羅**

（※開発中）

オンライン資格確認連携	電子処方箋	電子カルテ共有サービス	バイタル自動入力	LINE予約順番待ち	番号表示呼び出し	3点認証

（※上記プログラムはすべてオプション対応となります）

医療DXの第一歩は、バイタルの“自動化”から。



- **記録ミス・転記の手間をゼロへ**
- テルモ製HRジョイントに対応
- 看護業務に自然に組み込みできる

💡 クラウド型電子カルテとして、バイタル連携まで対応可能な点が強み。

（※オプション対応）

医療DXの本丸、電子処方箋で業務が変わる

入力ミス・確認漏れを防ぎ、薬局との連携もスムーズに

- ✓ **処方～薬局までがシームレスに**
- ✓ **薬局での入力作業が大幅に軽減**
- ✓ **処方内容の確認ミスを防止**
- ✓ **マイナ保険証とスムーズに連携**

💡 クラウド型のAHISなら電子処方箋の対応もスムーズに

現場の声に応じて、柔軟に機能を拡張できます

業務の実態に合わせた機能拡張が可能

病院独自の帳票追加や番号案内など

ヒアリングに基づくカスタマイズ対応

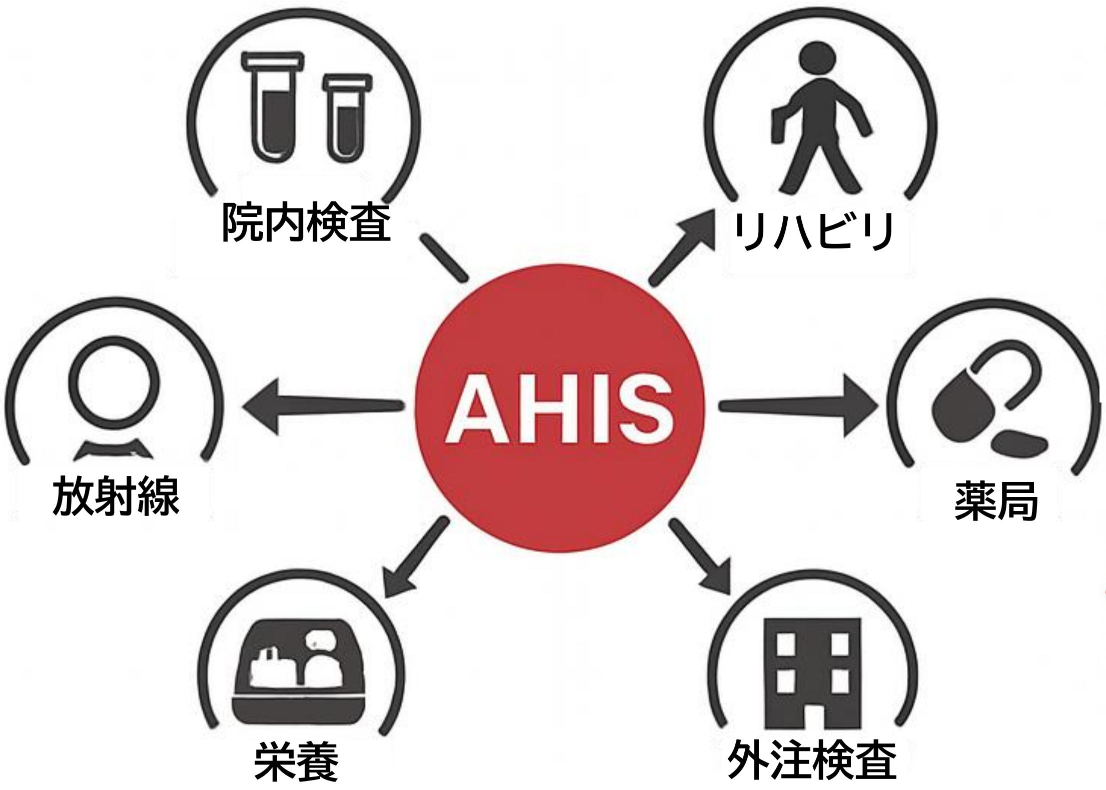
導入後のご要望にも柔軟に対応

クラウド型だからこそ柔軟な対応が可能

現場の”あったらいいな”に柔軟に対応

AHIS

部門連携にも柔軟に対応



主要部門システムとの接続実績

PACS・検査・リハビリ・薬局など、
導入施設ごとに連携対応

柔軟なインターフェース対応

CSV連携・API連携などに対応し、
段階的な連携も可能

病院の運用に合わせた個別設計

各部門のフローに合わせた、
実用的なシステム設計

💡 業務を分断させない。現場をつなぐAHISの連携力。

スムーズな運用とコスト抑制、選ばれる理由

平尾病院 様
（福岡県・72床）

・ORCAと連携し業務の効率化を実現
・紙カルテから全面移行、操作定着が早い

看護スタッフにも好評で、スムーズに使いこなせています

井上病院 様
（徳島県・60床）

・クラウドでサーバー管理が不要に
・既存のORCA資産をそのまま活用可能

導入後の柔軟な対応にも助けられました

花の丘病院 様
（三重県・96床）

・オンプレ型からクラウドへ移行でBCP対策強化
・UIが分かりやすくスタッフ定着がスムーズ

現場に合った設計で、導入後も安心して使えています

全国で続々と採用が進むAHIS

💡 コストパフォーマンスと運用のしやすさが評価されています。

費用比較でわかる、選ばれる理由

100床規模の病院で5年間運用した場合の費用を比較すると

（※一般的な30台構成を基本として、他社はオンプレー体型電子カルテの費用を想定しています）

	AHIS （ORCA連動型カルテ）	A社 （従来型カルテ）
初期費用 （ハード含む）	約1,000万円～	約3,400万円～
保守費用 （クラウド利用料）	約350万円～	約400万円～
5年総額	約2,750万円～	約5,400万円～

💡 AHISなら5年間トータルで最大2,000万円以上の差も可能に。

※端末や部門連携などシステムの構成により費用は異なります

導入までのステップ

1
[お問い合わせ]

2
[デモ・ご提案]

3
[ご契約]

4
[準備作業および操作指導など]

5
[運用開始]

導入に際しては病院様のご要望に応じて柔軟に対応いたします。
“現場への負担を最小限に”
弊社スタッフが一貫して支援し、安心して運用を始められます。

よくある質問（FAQ）

Q. 他メーカーのレセコンでも使える？

→ ORCAのみ対応となります

Q. 電子処方箋に対応していますか？

→ はい。対応済みです

Q. 導入までの日数は？

→ 一般的に6ヵ月～（最短３ヵ月）となります

Q. 導入後のサポートは？

→ リモートメンテナンスにてサポートさせて頂きます

お問い合わせ先

ご要望に合わせて柔軟に対応致しますので、
まずはお気軽にご相談いただければ幸いです。

お電話でお問い合わせ	フォームからお問い合わせ
087-867-6658 受付時間：平日9:00～17:30	AHIS電子カルテ https://ahis.aits.jp/
株式会社 エイトス	

✓ ご要望に応じたデモも可能です。